

日本がん登録協議会学術集会に参加して



佐賀県健康増進課 熊谷 侑一郎

佐賀県健康福祉部健康増進課がん撲滅特別対策室

私は佐賀県庁の行政職員として行政の立場から日本がん登録協議会学術集会に参加しました。

私自身は今回初めて学術集会に参加したのですが、当県としては、近年、県拠点病院である佐賀大学と共同で演題を出し、毎年参加しています。その大きな契機となったのが、平成22年のICTを活用した地域がん登録促進プランから始まった佐賀大学との連携です。佐賀大学とは①医療従事者向けのがん登録研修会の開催、②がん登録実務者の基礎知識の維持とスキルアップのためのeラーニングサイトの運営、③市町のがん検診データの可視化等の研究活動について連携して実施しています。

研修会は、佐賀県と佐賀大学との共催で運営していますが、全国がん登録の開始に先立ち、平成26年度から研修会をはじめ、令和元年度は研修会を4回開催しました。研修内容は、研修後のアンケートや日頃寄せられる意見を基に、講師の先生や佐賀大学の院内がん登録室の職員を中心にどのレベルの研修が適切か、優先的に行うべき内容は何かを検討し決定しています。研修会は、当初、佐賀県内の医療機関のみを対象としていましたが、県外の医療機関の方々からも参加したいという声が増え参りましたので、県外の医療機関の方も参加可とする事で、より多くの方に研修を受けていただけるようになり、九州・山口圏内まで広がっています。

eラーニングは、実務者がそれぞれの都合に合わせて、いつでも、どこでも、がん登録について学べる環境を整えていますので、がん登録従事者のスキルアップ等につながればと期待しています。こちらも県内外問わず受講可能ですので、興味が

ある方は下記QRコードよりアクセスしてみてください。

研究活動については、我々行政の担当者と大学で毎年テーマを決めて分析を行っています。今年の学術集会もセッションでの発表やポスター発表に参加しましたが、その中のひとつである、「データ分析業務の効率化」にて私も話をさせていただきました。私は平成31年4月から現在の部署に配属となったばかりのため、上記にかかるツール開発当時から携わっていませんでしたが、ポスター発表を機に過去の資料を見返して勉強したり、実際に学術集会に参加して他の方の講演を聞いたりすることで、データ分析の重要性を再認識しました。また、これから行政としてどのようなことをしていくべきか、どのようなアイデア、アプローチがあるのかということをより明確にすることが出来たのではないかと思います。

私は、医療関係の職場で働いたことも医療について教育機関で勉強したこともないので、専門的な話になると現場で働かれている方々には及びません。そこに関しては多くの都道府県の行政職員も同じだと思います。だからこそ、医療従事者として働かれている方々と積極的にコミュニケーションを取り、不足している知識、経験を補うことが不可欠だと感じています。そうすることで、行政だけでは出来ないことも出来るようになると考えており、これからも県内外問わず多くの医療機関で働かれている方々からご意見を頂きながら業務を進めていきたいと思っています。そのため、医療従事者の方が多数参加され、日々の業務についての発表をされている学術集会はとても有意義な機会だと感じました。また来年度もぜひ参加させていただきたいと思っています。

佐賀県がん登録支援体制

がん登録に関わるデータから佐賀県の情報をみきわめ、知る、触れる



集める実務者から使える、活かせる実務者へ